

平成29年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革 公開フォーラム」

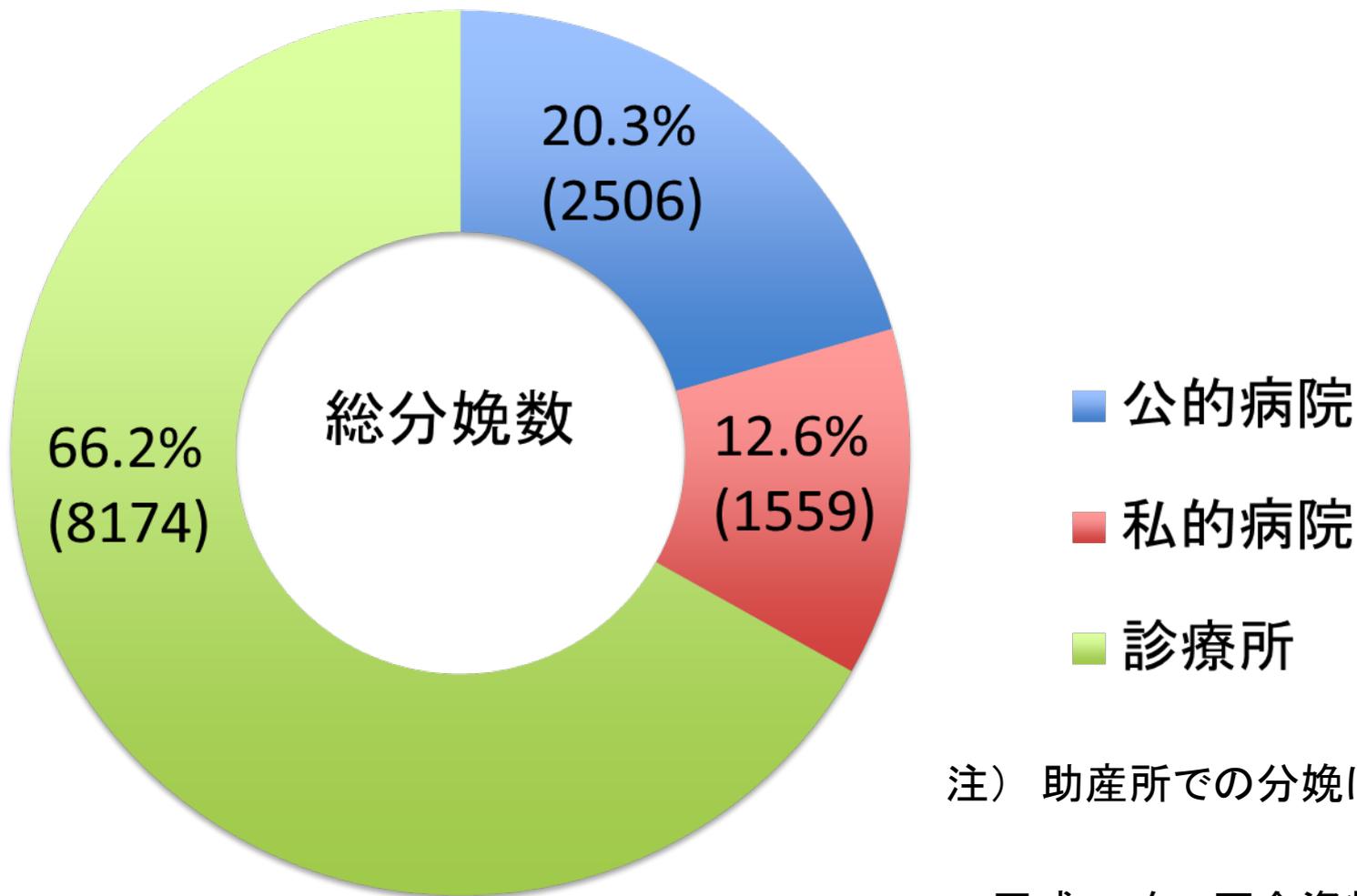
持続可能な産婦人科医療提供 体制について

長崎県産婦人科医会長
森 崎 正 幸

平成29年4月15日(土)
第5会場/NTTクレド基町ビル11階 NTTクレドホール



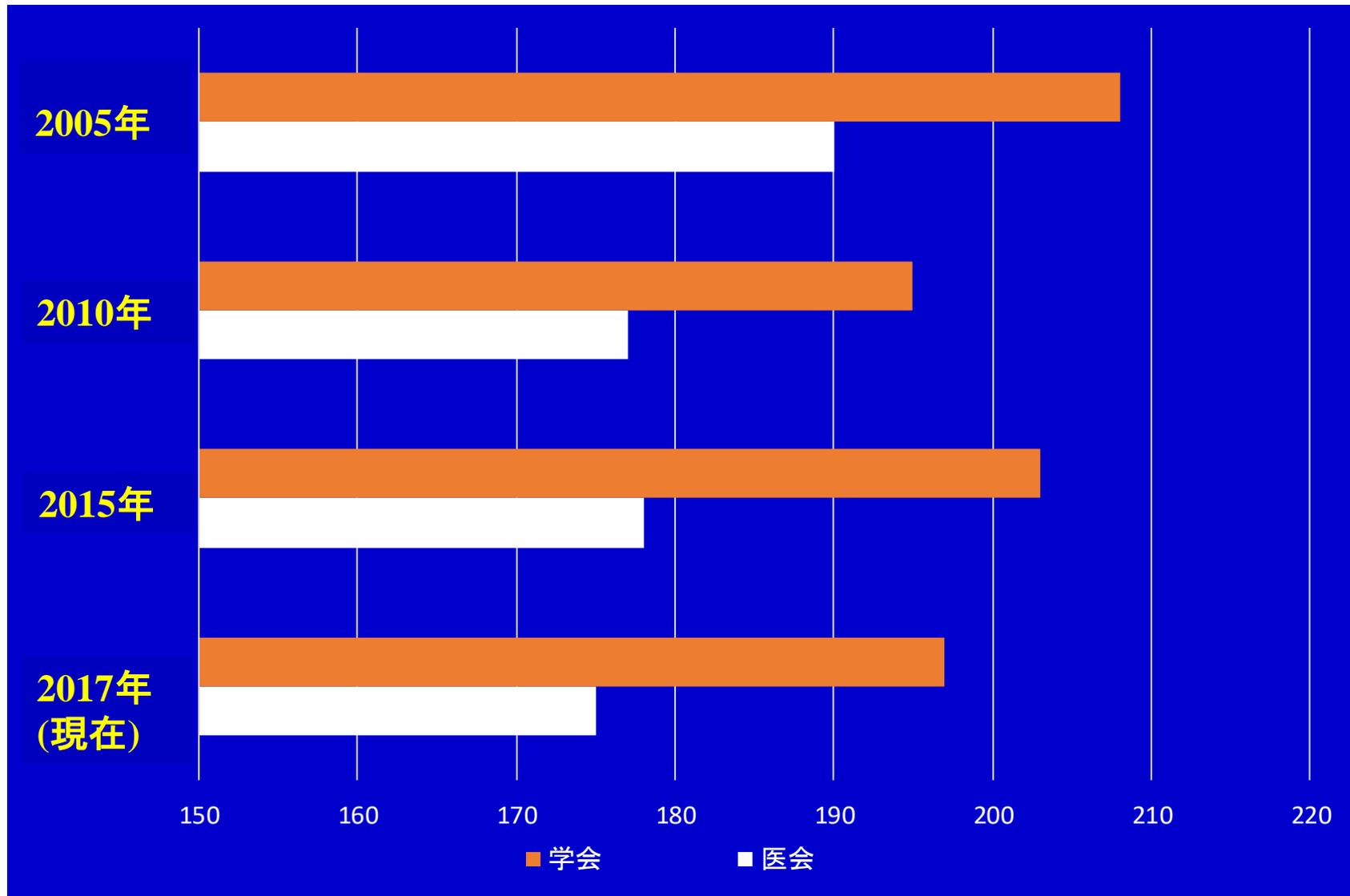
1. 長崎県における分娩数施設種別の割合



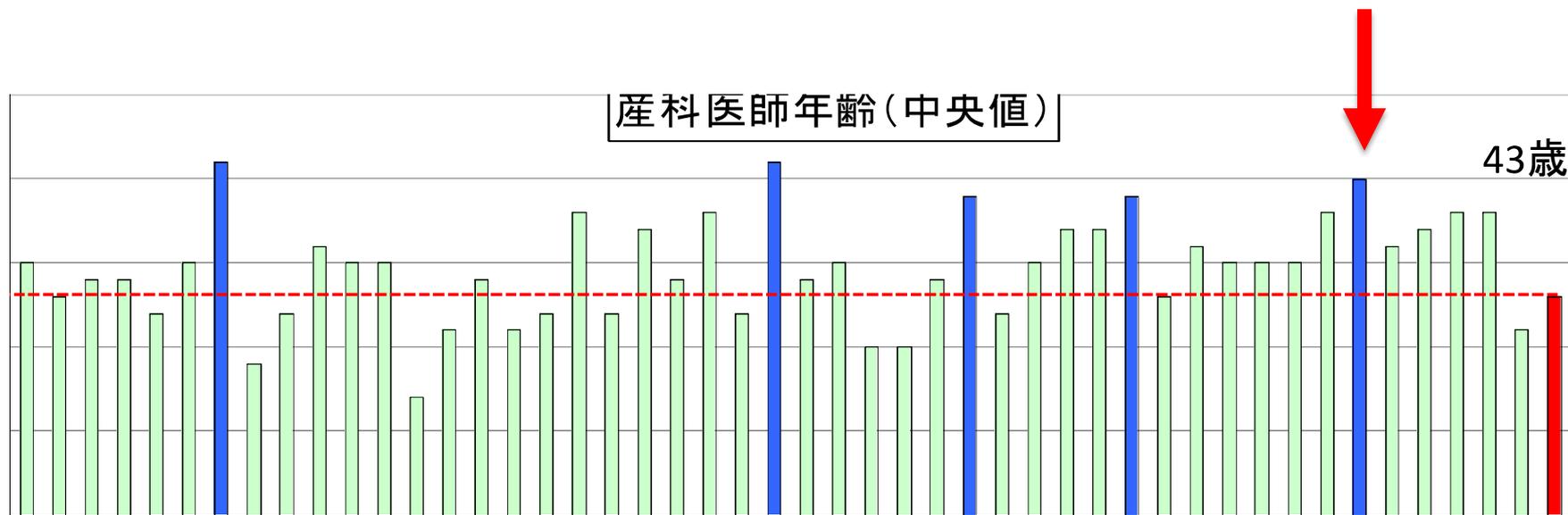
注) 助産所での分娩は除く

平成27年 医会資料より

2. 長崎県内の産婦人科医師数の推移

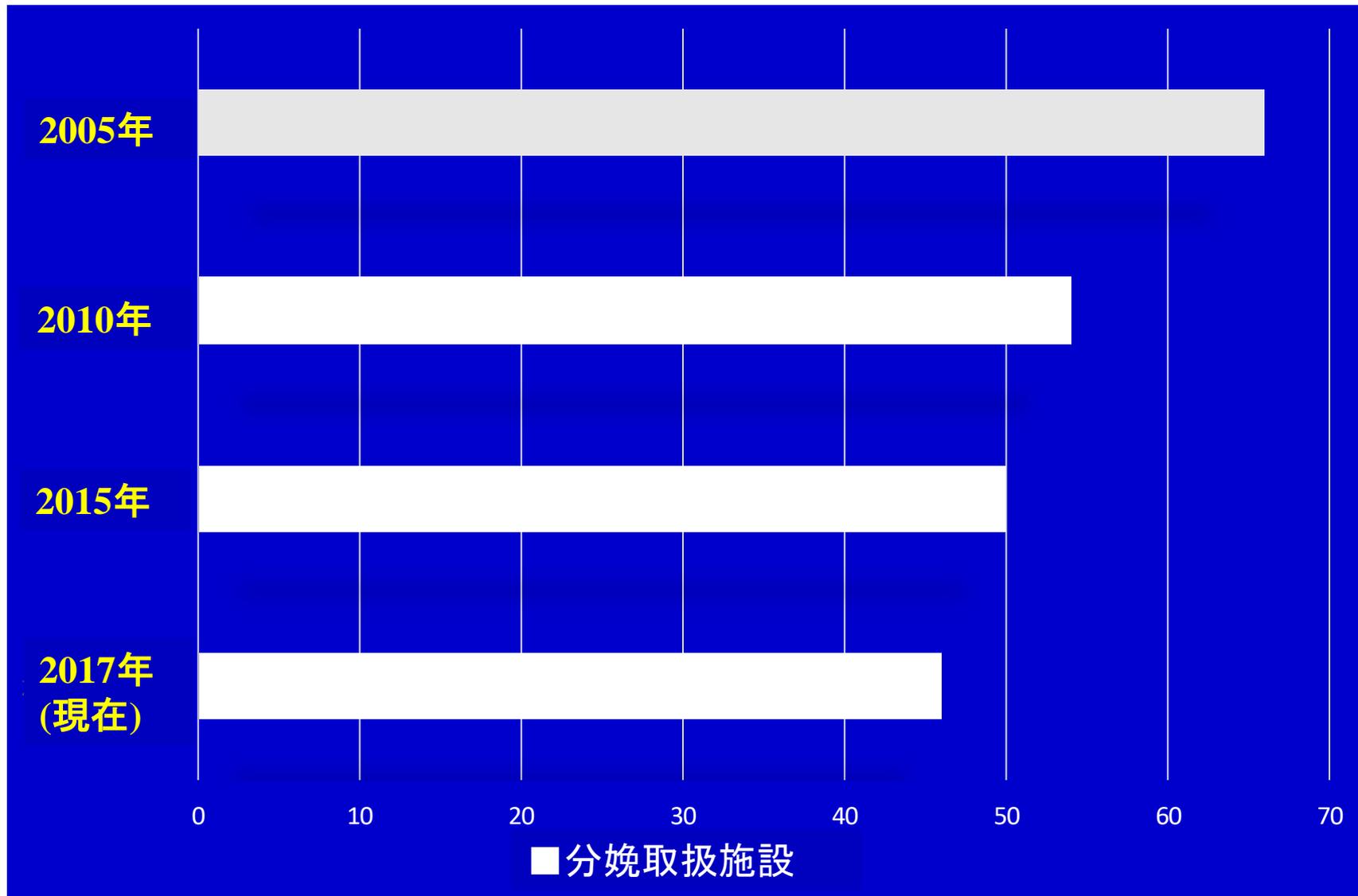


長崎の産科医は高齢化が進んでいる

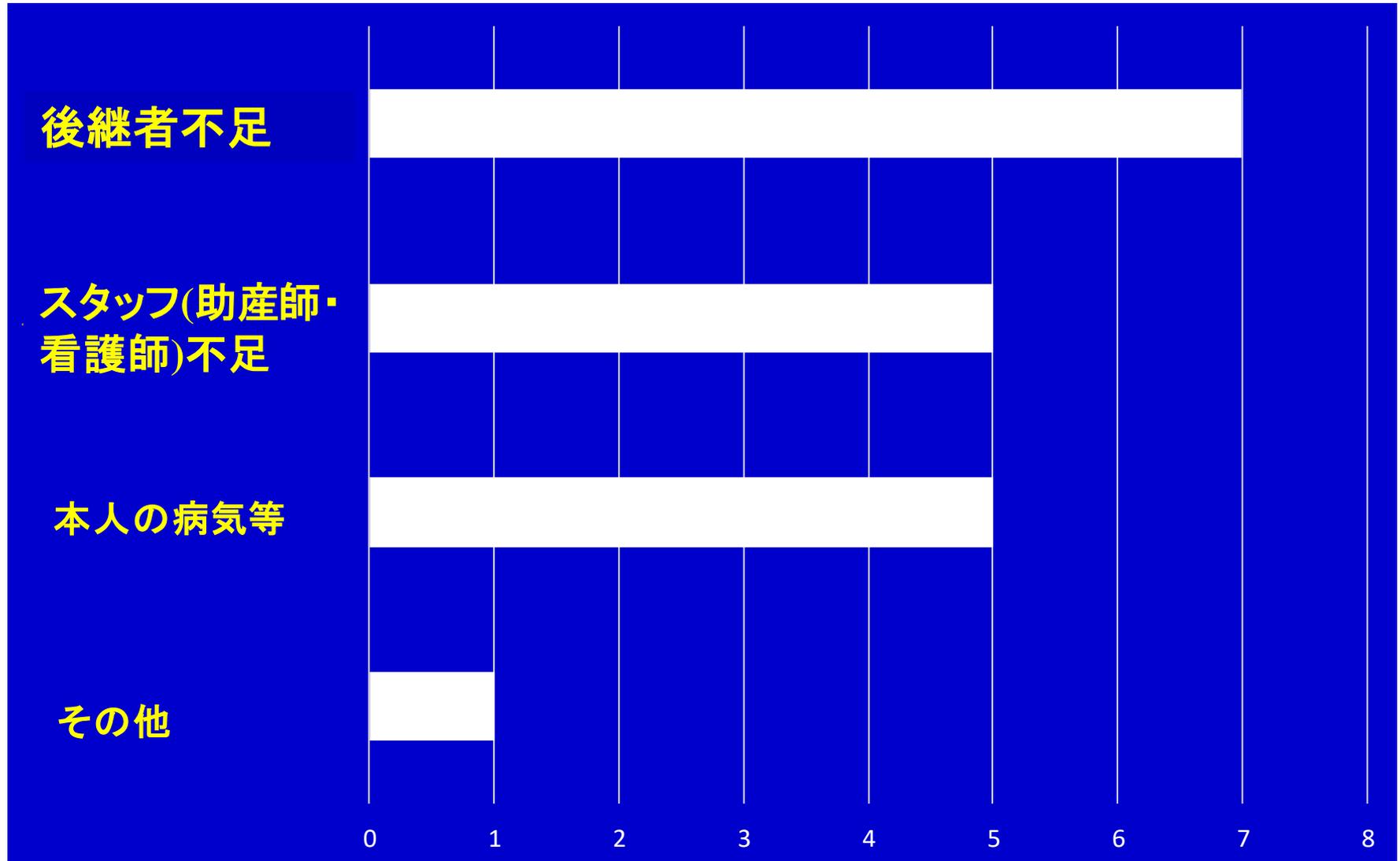


長崎県分娩取り扱い開業施設で勤務する産科医師
平均年齢: 60.0歳
65歳以上の割合: 20名/48名 (43%)

3. 分娩施設の推移



4. 分娩をやめた理由(18施設、複数回答)



産婦人科医会の対応・対策

1、産婦人科医師の確保（新入医局員を増やす）

三重県方式で、学会、医会が車の両輪となり、
リクルート活動

(医会は会費の値上げ増収で、学会へ経済的支援)

2、分娩施設(診療所)の確保

(1) 経営難の解消の為、分娩料金の適正化(値上げ)

⇒ 公立病院分娩料は更なる値上げ

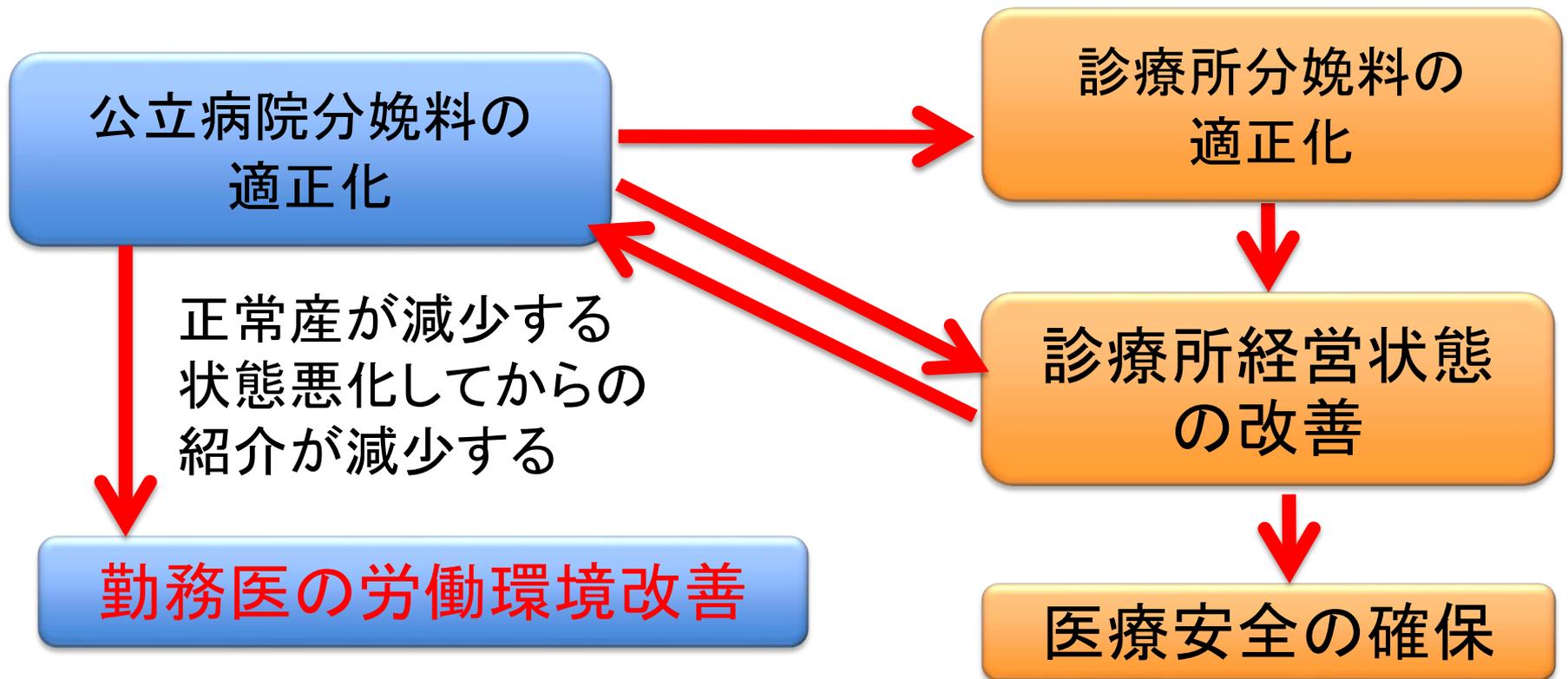
(2) スタッフ(助産師、看護師)の確保

⇒ 医師会立看護学校助産学科の新設

(3) 開業医と公立病院の連携・支援

⇒ 周産期医療支援ネットワークシステム「すくすく」の
導入・普及

分娩料金の適正化が 産婦人科医の確保に繋がる



産婦人科医の確保